

下野市子ども・子育て会議 議事録

審議会等名 令和4年度第2回下野市子ども・子育て会議
日 時 令和4年7月19日（火） 午前10時から11時40分まで
会 場 下野市役所 2階 203会議室
出席者 菅聖子委員、原田いづみ委員、早川陽子委員、竹内康弘委員、
猪瀬七重委員、大塚洋子委員、小谷光子委員、佐間田香委員、
大垣玉枝委員、藤川智子委員、小林勲委員、稲山貴之委員
【欠席委員】高山由紀子委員、峯雅士委員
その他出席者 社会福祉法人内木会 内木大輔園長
市側出席者 （事務局）福田健康福祉部長、金田こども福祉課長、
伊澤（雅）こども福祉課課長補佐、伊澤こども福祉課課長補佐、
植野こども福祉課主幹
公開・非公開の別（ 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 ）
傍聴者 3名
報道機関 なし
議事録（概要）作成年月日 令和4年7月21日

1. 開 会

（事務局、金田課長）

ただいまより、令和4年度第2回下野市子ども・子育て会議を開会します。
委員の出席状況ですが、高山委員から欠席との連絡を受けています。過半数
の委員の出席がありますので、下野市子ども・子育て会議条例第6条第2項
の規定を満たしており、会議が成立することをご報告いたします。
それでは、次第に基づき、2.会長あいさつを頂きます。

2. 会長あいさつ

（佐間田会長）おはようございます。本日はお忙しい中、お集まり頂いてありがとうございます。挨拶ということで。先日、小児科外来の方に2歳くらいのお子さんが見えました。その時はおばあちゃんと一緒に来て、たびたび来る子なんです。が、たびたびくる子は、待合室にある本で、お気に入りの本があつて、2歳過ぎの子が持ってきた本が、「ねえねえどんな顔」という本だったんですね。中身は、ただ、マスクをとって顔が出てくるっていう、最後まで延々、その繰り返しなんです。正直大人にとってはそうでもないというか、あまり面白い本ではありません。でも、この子はこの本がすごく気に入りで、いつも持ってくるのですが、ふと気がつくと、2歳っていうと生まれてから全てがコロナ禍に入っていて、コロナになってから歩いて、しゃべり始めて、全てがコロナ禍です。だから、親以外のちゃんとした顔っていうのは

あまり見たことがないのかと思って、「ねえねえこれ何？」って興味を引くっていう、2・3歳児にとって最大の興味の関心事が他の人の顔なのかと思った時に、正直ちょっと衝撃を受けました。今、また感染が増えてきていますが、やがてきつこのマスクを外す時がきたときに、きっと大人の私達は元に戻ったという世の中に感じるのかもしれませんが、小さな、ほんとに幼い子ども達は、元に戻ったではなくて、新しい世界に変化したと、きっと感じるんだろうなと思います。日々、毎日生活は変化しております、生活や環境も変化しております。今日、内木先生にお越し頂いておりますが、色々な話し合いの中、未来に向けての発展的なご意見をどうぞよろしく願いいたします。以上で私の挨拶とさせていただきます。

(事務局、金田課長)

ありがとうございました。本日は、前回子ども・子育て会議の時に委員の皆様から招集の要望がありました、薬師寺保育園から園長の内木大輔様に出席を頂いておりますので、会議に先立ち報告いたします。また、本日の会議は会議録を作成するために録音させて頂いておりますので、発言はマイクを使用して頂きたいと思います。

3. 議事

(事務局、金田課長)

では、議事ですが、進行につきましては、下野市子ども・子育て会議条例第5条第3項の規定に「会長は、子ども・子育て会議を代表し、会務を総理する。」とあります。以降を佐間田会長の進行でお願いいたします。

(佐間田会長) では、議事に入りたいと思います。

(1)の「下野市子ども・子育て支援事業計画の変更について」を議題いたします。(1)の議題について、事務局から説明を求めます。お願いします。

(事務局、植野主幹)

【資料No.1に基づき説明】

(佐間田会長) ただ今、事務局より説明がございました。事務局からの説明につきまして、ご意見等がありましたらお願いします。なお、内木会様へのご質問等は、この後、別途お伺いいたしますので、事務局の説明についてのご質問などがありますでしょうか。

(稲山委員) ちょっと、そもそもの話になって申し訳ないんですが、移行事業にあたって、市子ども・子育て支援事業計画に位置づけがされていなかったのはな

ぜ、どうして位置づけされなかったのか教えて頂けないでしょうか。

(事務局、植野主幹)

計画当初におきまして、薬師寺保育園のお話が出てなかったというのが理由となります。計画に位置付けられていませんでしたけれども、今回、こういう流れになったということです。

(稲山委員) 薬師寺保育園の話がなかったというのは、具体的に何の話がなかったのですか。教えて頂けますか。

(事務局、植野主幹)

移転して、施設を大きくするという計画ですね。この計画当時は、計画されてなかったということです。

(稲山委員) わかりました。ありがとうございます。

(猪瀬委員) この資料を見させて頂いて、②必要保育量の見込みと、③確保方策についてということで、令和4年度のところを縦にずっと見ていきますと、今回、令和4年度、見込みで、1号さんが391名、確保方策で644名、そして、ということは、1号さんが多くなるっていう、幼稚園に入園するっていう子どもさんが多くなるっていうことなののでしょうか、ということが1点と、それと、2号、3号につきましても、1,040名の必要見込みであって、確保方策は1,030名、10名、そして次は4名、4名になると思うんですけども、この点については、その点不足になるので、薬師寺保育園さんの方が少し人数が増えての定員になるのかということに繋がっていくのか、それがちょっと知りたいなと思います。それと、この資料を見せて頂いて、今、現在の下野市にある幼稚園・保育園施設の今現在のみなさんの定員ですね、がちょっと見えてないので、どのくらいの定員で、どのくらい入っているのか、どのくらい空きがあるのかっていうのがちょっと見えてないので、そこが知りたいなと思います。よろしくお願ひします

(事務局、植野主幹)

まず、1号の数が多いいということなんですけれども、1号は地域の事情で変動する可能性があることから、提供体制不足が見込まれる場合に1号の定員増で確実に提供体制を整備することになっておりますので、実際よりも多い数になってます。2号に関してなんですけれども、今後の見込みなんですけれども、今のところ、推計だけになってしまうので、何とも言えないところなんですけれども、必要量、今後保育が必要な方が増えていくのは間違いないので、不足していくのは間違いないということで作った数値でもあります。

ただ、今現在ですと、数値を出していくと、今のところ出せる数値なんですけれども、今後の見込みとしては、保育の必要量が増えていく、イコール確保方策を増やしていかなければならないということでこちらの表を作らせて頂きました。今現在の利用状況ですが、7月現在の利用定員に関して、どれくらい入っているか、余りはどれくらいかということでもよろしかったですか。全体でよろしいですか。

(猪瀬委員) はい。全体で結構です。各施設だと大変だと思いますので。できれば年齢ごとに、何歳児は何%充足していて、入れるというのが分かれば、一番わかりやすいのかなと思うのですが。

(事務局、植野主幹)

3号、0、1、2歳ならわかるんですけども。3号だけお答えしてもいいですか。

(猪瀬委員) わかる範囲で答えて頂ければ大丈夫です。

(事務局、植野主幹)

0歳児、3号なんですけども、利用定員は全員で206名、1、2歳が708名となっております。現在で言いますのが、0歳児が175名、残りが31名、1、2歳児ですが、625名入っております、残りは83名となっております。3号ですと、全体であと145名入所枠があります。

(猪瀬委員) ありがとうございます。

(猪瀬委員) もう一つ教えてください。今、新聞等で保育園が閉鎖されているとか、東京なんかは、保育園が閉鎖して、今後違う形態で、病児保育とかそういう形態になっていくということが新聞等で私も目にすることがあるんですけども、下野市は、そういうことがないのか、人数によって保育園が閉まってしまうとか、そういう心配がないのか、そこも心配ではありましたので、教えてくださいと思います。

(事務局、植野主幹)

先ほどのご説明でも言ったとおりに、市内の需給状況を見据えて市全体で考えていく方向なので、皆様でご協力いただく形をとっていきたいと思いますので、なるべくそういったことがないようにしていきたいと思っております。

(佐間田会長) その他にご意見がなければ、議事(1)の「下野市子ども・子育て支援事業計画の変更について」は、施設長会議のご意見をきいたうえで、次回の子ど

も・子育て会議で、委員の皆様にご報告して頂くようにいたします。
続きまして、薬師寺保育園から園長の内木大輔様がお出席されておりますので、委員の方からご質問などがございましたら、ご発言をお願いいたします。

(内木園長) ただ今ご紹介いただきましたが、薬師寺幼稚園の園長として、社会法人内木会の事務局長という立場で出席しておりますので、よろしくお願いいたします。

(大垣委員) 子育て会議の中で、何回か質問させて頂いたんですが、この薬師寺保育園が移行するにあたって、保護者の皆さんに不安がなかったのか、薬師寺保育園は保護者会がないというふうに聞いておりますので、どんな形で、それを保護者に説明なさったのか、それと、ほんとにずっと心配がよぎるんですけども、あの狭い道路に、あそこの敷地には建物が建とうとしてるんですけども、それで定員も増える、認可定員も増えるということで、ほんとその交通事情に関しても、心配とか、皆さん朝すごい勢いで、仕事に行くために焦ってるわけですね、そういったことを保護者への説明というか、保護者は安心して移行することを認めたのか、そこをお聞きしたいと思います。

(内木園長) お答えさせていただきます。1点目ですけども、保護者にどんな説明をしたのかということですが、まず、保護者会がないところを否定的に何となくおっしゃっているようですが、民営化の時から保護者会はあったんですけども、実質的には総会1回のみやっております、残りは保育園の方で企画をして保護者会費として集めたものを使ってイベントをやるとか、プレゼントをするというような状況だったので、保護者の方からも、保護者会はない方がいいというお話を頂いて、系列のわかば保育園とかそれから宇都宮の園とかからもしてみると実際には、リング狩りとか遠足費を運営費から出している部分もあったのが、薬師寺保育園の方ですと、保護者会費から出たということがあったので、保護者会無くして、集金も無くしませんかという感じになりました。その時には、アンケートをとって、全員賛成という形で保護者会が無くなったという経緯があります。そのうえで、認定こども園移行に関しましても、やはり、それも保護者からご意見があつてですね、育休1年で復帰すれば保育園で上の子が退園にならないんですけども、中には、やっぱり育休3年取れますよという会社さんだったり、職場もあるわけですね、けれども実際に2年目3年目に入った時に上の子が出されてしまうという問題があつてですね、それもあったので、薬師寺保育園にはられない、薬師寺幼稚園に移りますという人もいました。子どもが慣れているので、仕事を辞めてしまったりとか、育休延長になっても、辞めないですむような認定こども園にならないかなと、そこまでの内容がありまして、やはり

ですね、基本的には、子どものため、保護者のためを考えた時に認定こども園に移行した方がいいだろうという話になって、やはり、そちらの方で考えたという形になっていきます。保護者の方には、そういったことを話させて頂いたところ、基本的にやっぱり、認定こども園への移行は保護者のデメリットが全く無いんですね。基本的に認定こども園に移行しても、うちは上乗せ徴収しませんよと宣言してますので、保育料も変わりませんよということでお話しさせて頂いてますので、そういったところで、保護者からしてみれば、やっぱり園舎が新しくなって、なおかつ、もし万が一何かの事情で自分は仕事を辞めても子どもは退園にならないですむといったところもあるので、基本的に反対意見というのはありませんでした。やはり、説明会をした時も、期待の声はあれど、反対の声はなく、基本的には皆さん新園舎のことを心待ちにしているという状況です。2点目ですね、交通事情に関してですけれども、そんなに狭くはないと認識しています。基本的に6メートル確保されていて、基準は、4mなんですね。4m確保できないと保育園は建てられないんですが、6m確保されていると。その6mがどういうものかという、第2薬師寺幼稚園の第1駐車場は園舎の北側にありますが、そこにアクセスする道路も全部、6mです。なので、240名の子ども達が通っている第2薬師寺幼稚園であっても問題なく、住宅街の中で行き来をします。基本的にはそこまで狭いものではないと感じています。ちなみに、隣のクリニックさんも1,000名以上の患者を抱えて、週5日やっている、毎日200名以上の方があそこで透析を受けたり診察を受けているのですが、やはり、今時点でもそういう状況ですので、特別うちの110名の園ができたとしても、安全性の確保に問題があるとは考えておりません。そういったところもあるので、こちらとしても配慮して道路からきちんと入って駐車するというので、40台分の駐車スペースを作っております。そういったところも含めて安全性には特別問題はないと感じています。以上になります。それともう一つですね、先ほどの稲山委員からの質問であった、子育て計画になぜうちの認定こども園化が入っていないかというところなんです。が、うちが民営化を受けたのがですね、令和元年の年になります。で、令和2年度からの計画なので、令和元年度のうちにある程度の計画は決まっちゃって、当然ながら決まった状態でした。でも実際に認定こども園になりたいという声が現場からも上がったりして、こちらでもそういう風にした方が子どものためになると思ったのは、民営化を受けて1年経ってからという形で、実際にはその時点ではもう計画は策定されてしまっていて、変えられなかったということになります。それなので、おそらく載っていないということになるのかなと思います。以上になります。

(早川委員) 先ほど駐車場が40台分確保されているとおっしゃっていたんですけども、40台で足りるのでしょうか。例えばイベントをやった時とか、夕涼み

会や運動会、発表会をやった時に40台全部埋まってしまった場合は、どの様に考えておりますか。

(内木園長) こちらの方もですね、40台がどうゆう台数かというと、第2薬師寺幼稚園は、第1駐車場、第2駐車場、それから第4駐車場が保護者用の園周りの駐車場なんですけど、全部合わせて40台です。240名に対して。それでやりくりしているんですが、特別問題なく進んでいます。そのコロナでも分散して行事を行うなどしているんですが、そもそもがやはり市街地で、なかなか第2薬師寺幼稚園は駐車場の確保が難しい中で、もともとそういったことをやっていたところ、110名に対して40台といったところは、特別少ないといったことはないのかなと思っております。よろしくお願いいたします。

(早川委員) ありがとうございます。コロナが終わっても問題ないということですね。承知しました。あともう1つ伺いたいのですけれども、一番最初に私がこの会議で聞いたときに、建物を建て替える理由が雨漏りだったと思うんですね。一番最初は道路が冠水してしまったというお話だったんです。そこからちょっと園舎の建て替えを考えてみようかなということだったと思うんですけど、前は、雨漏りが各クラスで起こっているかのように伺っていたんですね。そんな中、老朽化に伴って修繕していくのが難しい、なのでちょっと建物自体を建て替えていく必要があるのではないかとということだったんですけれども、ここ最近、とても雨が降ってましたよね。その間園児たちはどう過ごしていたのかというのが、私も保護者としてはとても気になっていて、前回のお話だと、修繕ができないような雨漏りがひどいので、その対応策というのはどういったことをしていたのかをお伺いしたくて、よろしくお願いいたします。

(内木園長) ありがとうございます。園舎で雨漏りをしているのは、正確な数は覚えていないんですが、3、4か所です。で、だいたい直りました。ただ、どうしても直せないのがホールの雨漏りだったんですね。ホールの倉庫の部分に薬師寺保育園は分電盤があるんですけれども、そのちょうど上から染み出すように壁伝いに水が落ちてくるという状況で、4か所あったものは、基本、業者さんに直していただいたんですが、ここだけは原因が分からないといって、これ以上やるんだったら、屋根の上から屋根を剥ぐとか、そういうような形で、どこから漏れてくるのか分からないので、ホールの屋根の上全部、屋根を剥ぐ、屋根の張り直しになってしまうということをおっしゃっていただきました。民営化を受託する際に、10年間で立て直すことという条件が付いていましたので、その工事を1,000万円近くかけてやったとしても、10年しかいられないというような状況であれば、早めに移転の方を考えた方が、や

っぱり、子ども達にもメリットがあるなといったところがありましたので、基本、今は教室の方は全部直って、雨漏りはしてません。分電盤は、基本、ビニールシートで覆ってですね、ショートをしない、漏電しないと、火災になっては大変ですので、そういったような形でなんとか乗り切っているというところなんです。10月から新園舎で開園という形になるので、そういったところで対応しているおります。あとはですね、道路の冠水とかも、台風19号の時ですか、その時に、土曜日だったからよかったですけれども、アクセスする道路が全て水没するという状態になっていて、気候変動というのはこの先も激しくなることはあっても、すぐに終息するということは考えづらいかかと、子どもの安全、というところを考えると、30年間安心して過ごせるようにするには今の場所で建て替えるのが適切なのかということを見るとそうではないだろうというところで、移転という考えに至りました。以上です。

(早川委員) わかりました。ありがとうございます。

(小谷委員) 110名中、今、何人決まっているんですか。園児は何人決まってるんですか。10月ですよ。

(内木園長) 現在60名定員でやってまして、50数名、50名くらいだと思います。

(小谷委員) そうしますと、10月から110名になるんですか。

(事務局、植野主幹)

事務局からお答えいたします。10月1日からの利用定員は、今年度、4年度に関しましては、薬師寺保育園は60名のままでいく予定ですので、変更はありません。1号2号の人数の配分について変更はありますけれども、利用定員の本年度の変更はありません。

(小谷委員) そうしますと、来年の4月から110名という数ですか。

(事務局、植野主幹)

そうではなくて、110名ではなくて、段階的になると思うんですけども、先ほどご説明したとおりに、市内全体の需給状況を、また、受け入れ先の状況等を考えて決めていく予定ですので、すぐ、110名という話ではありません。

(小谷委員) ありがとうございます。

(猪瀬委員) 先ほど、大垣先生のお答えで、内木先生からお話しいただいたんですけども、育休の、今までだいたい1歳まで保育園だと1歳前後までですよ、取れるのは。保護者から3歳まで取れるところは取れるので、そういう要望があったということで、認定こども園になるというお話、父兄の方からも要望があったということなんですけれども、どのくらいの方がそういう要望があるのか。私もずっと保育園に勤めていて、なかなか、3歳くらいまで育児休暇を取る保護者さん、あまり会ったことがないので、どのくらいの方がいらっしゃるのかなということと、定員が薬師寺保育園の時には60名だったんですよ。それが認定こども園になって、110名になった。私も保育園の園長をさせて頂いているので、50名多くなるというのは、最初、えっ、て思ったのが正直なところですよ。なぜ、その60名から110名、認定こども園になっても、60名前後の定員であれば、こんなに、えっ、て思わないんですけども、110名の定員になった、そして、今度、移転なさるところの周りには、ほかの教育施設、幼児施設がたくさんありますよね。そこが、皆さんのバランスとか、どうなのかなと、ちょっとそこが疑問に思っています。お答えいただければ幸いです。よろしく願いいたします。

(内木園長) お答えさせていただきます。私が直接、話を聞いたのは2名です。どちらも育休ではなくて、仕事を辞めたいんだという話だったんですね。辞めちゃったら保育園を辞めなきゃいけないというところで、育休の話は、他の現場の職員が聞いて持ってきた話なんですけど、説明会が終わった時に2名いらっしやって、その話になった時に、仕事を辞めてもじゃあ大丈夫なんですよ、というお話でした。育休3年という方は、学校の先生でしたね。確か、そんな話をされてきました。そういった形なので、潜在的には、やっぱり仕事を辞めたいけれども、子どものことを考えると辞められないという方もいらっしゃると思うんですね。女性は、介護もあたりだとか、メンタルヘルスであったりとか、家事との両立とかいろいろ考えた時にベストな選択として、仕事との両立が難しいという方が確かに要るんだなというのは現場で感じるところです。なので、選択肢として、認定こども園になることが現場にとって一番いいのかなと思っております。それから110名になったといたところで、110名ありきで考えていたわけではないんですけど、やはりですね、希望して頂いても入れないという方が結構いらっしやって、薬師寺保育園の今の0歳児の定員が2名しかないんですね。やはりそういったところで、在園児の下のお子さんを受け入れるのが難しいという状況になってしまうとですね、上の子は薬師寺保育園、けど下の子は違う園、というふうになった時に、それが保護者にとっていいことなのかというと、それは当然ながら保護者にとっていいことではないと思っておりますので、そういったところで、やはり、希望して頂ける方であったりとか、それから在園児の兄弟とかを受け入れていきたいという時に0歳を2名から12名に増やしたいなと思つてま

した。そういったところで積み上げていくと、1歳になってもちょっと途中入園を受け入れてとやっていると、結果的に110名になっていくという形になります。なので、110名という数字が最初からあったわけではなく、そういうふうに考えた時に、保護者の利便性とかそういったところを考えた時にこういった数字になったのが実際のところでございます。あと、周りに教育施設がたくさんということなんですが、基本的に、市街地が下野市ってすごく狭いんですよ。グリーントウン、移転するとき不動産屋さん土地を探していただく時にいろんな土地を見に行きました。やっぱり不動産屋さんも言っていたんですが、グリーントウンって、南北に2キロ、東西だと1キロしかない、その周りは市街地で、当然買えないんですよ、グリーントウンの中とかは地価が高すぎてですね、やっぱりその周りという、その東側は田んぼで断崖絶壁みたいな形になっているので、移転先としては当然として適切ではない。となると、西側か、北側か、南側かとなってきますので、選択肢がすごく少ないんですよ。そういった中で、なるべく、それぞれの施設さんから遠いところということもこちらも考えましたし、それと、距離というのはお互いなので、お互い、近い、遠いはあるとは思いますがけれども、現在として、どこの施設さんとも仲良くやっていける場所だと、こちらとしては思っただけで移転したということになってきます。距離としては、いろんな園さんありますけれども、距離だけで全てが決まるとはこちらも思っていないんですよ。保護者も距離だけで選んでるとは思わないんですよ。そういったところで、距離だけに焦点をあてて決めていくよりは、保護者の利便性をといたところを考えた時に、どっかの田んぼの真ん中に造るよりは、保護者の通勤経路であったりとか、居住地の近くということが望まれるというのは当然のことなので、そういったところで、総合的に考えて決めていった形になります。以上です。

(猪瀬委員) ありがとうございます。

(大垣委員) 10月から開園ということで、60名でっていう形。10月は定員が60名ということで。市の方の説明として、令和4年度も110名ではなくて、60名ということで、徐々にいろいろ協議しながらそれを増やしていくとおっしゃっていたんですが、当然、保育園、幼稚園はパンフレットというものがあります。その中で、その定員の人数っていうのは、どのように記載されているんですか。

(内木園長) はい。基本的に定員というのは、一気に110名には当然ながらあがりません。というのも、今の入園者のメインというのは0、1歳児なんです。育休から復帰して0歳で預ける、もしくは、1歳で預けるという方が多いので、徐々に徐々に下の学年から定員に達して行って、3、4年かけて定員マ

ックスになるといった形になると思われます。こちらとしても、いきなり、110名ということは想定していなくて、認可定員は110名だけれども、利用定員はその年度で変わると、というような形になります。これは、たぶん、薬師寺保育園だけではなくて、市内の全ての施設が、定員は例えば、第2薬師寺幼稚園なんかは、280名だけれども、実際には、230名くらいですか、利用定員は260名くらいになってると、そういったなかで、実際のその年度の利用者数に合わせて決めていってますので、利用定員は、しばらくは書かないという形になるかなと思っています。以上です。

(佐間田会長) 質問事項が2つございます。1つ目は、10月から開園にあたっての保育士さんの数について、ネットとかで見るとは、かなり求人を出されていて、いろんなところで見ると、10月から開園するところのスタッフは、現時点は、足りた状態でその人数を受け入れているのかということをお聞きしたいのが1点です。

(内木園長) 基本的に足りています。というのも、今、事務局から説明があった通りですね、60名定員のまま、令和4年度は行って、途中で認可の人数は変えられないということでしたので、60名のままで、今と一緒にいます。うちがあんなに求人を出しているかということですね、基本的に女性の職場だからなんですよね。こちらとしては、1年間、ずっといてくればいいんですけども、いつ妊娠して、いつ出産されるかというのが、4月の時点では分からないんですね。なので、何人いても足らなくなる可能性があるといったところで、求人は出し続ける必要があります。やっぱり、保育士不足なので、足りなくなってから探したんじゃ、絶対見つからないと思うんです。なおかつ、誰でもいいわけではなくて、いい人を取りたいとなった時には、通年採用というのが一番いいなと僕は思っていて、通年で求人をかけて、いい人がくればとる。必要になる時期と多少時間差があっても、必ず必要になってきますので、通年で採用をかけているという状況になっております。

(佐間田会長) 分かりました。安心しました、ありがとうございます。もう1点なんですが、先ほど、大垣委員さんからもご意見がありました、場所について、一般市民として気になっていて、あの場所が適切だということで、あの場所に決定されたということですが、普通の、規定上は何m道路で、この広さがあって、というのがあればG0サインが出ると思うんですけども、一般市民としてみると、あの道路はすごく狭いなと感じていて、私も、実際、今まで裏道で使わせて頂いていたんですが、工事が始まってからは危ないので、あの道を通るのはやめました。ちなみに、国分寺中学校の生徒は、オータニのガードは通るのは危ないので禁止になっていて、例えば、小学生の通学路の安

全チェックでも、やっぱり鋭角になっている部分があるので、すごく交通量も多いし、ひっかかる部分ではあると思うんですね。園児の駐車場の乗り降りだけ考えれば、すごく安全で、園内で行ってしまえば安全、と思うかもしれないんですが、周りの市民からすると、結構危ないよなど、私達が暮らすのに、あそこにもっとたくさんの車が通って、しかもお子さんがいて、たぶん、オータニで買い物をして帰られるのかなと、色々考えると、危ないんじゃないかと、不安がございます。市の、例えば、一般企業もそうだと思いますが、新しい建物を立ち上げるときに、場所を選定するときこの場所の、例えば人口の増え方とか、周りのお子さんの数とか、その時に、この今日頂いた資料では子どもが増えるということになっておりますが、ゆくゆく、下野市の人口ビジョンを見た時に、高齢の方が増えてきて人口は下り坂になっていく、今、下野市の人口はどこが増えているかというのは、グリーントウンの地区ではなくて、工業団地があって、人が来てほしいあたりは、仁良川のあたりとか、義務教育学校のあたりとかですし、石橋地区とかくらいかなと。グリーントウンは少し減ってきているのに、なぜ、あの場所なのか。ほかにも、あれ一か所ではなかったと思うんですよ、出された場所は。ここでお話することではなかったかもしれませんが、どんなところを出されて、その中で、どうしてあそこにしたのかが腑に落ちないというか、皆さんそうだと思うんですが、子ども業界の人からすると、率直なところ、これから少子化に向けて、企業としては子どもの取り扱いなのかなというのがあります。ちょっと気になりまして、なので、ざっくばらんにはなりますが、ご意見を聴かせて頂いたらと思います。

(内木園長) はい、ありがとうございます。まず、駐車場、道の方なんですけれども、おそらく狭いのは曲がり角だと思うんですね。それもあって、うちの方としては、保護者には、あちらをなるべく使わないでください、とお願いする予定です。薬師寺幼稚園は田舎にありますので、農道から入ってくる部分も、入ってきても来れるんですけれども、そこは保護者にお願いして、朝の登園に時間は北から南に行ってくださいと、すれ違いできないので、とそういったようなお願いをされていて、大体の方は守って頂いています。同じような形です、保育園へのアクセスの時に、基本的には東側から入って、東側に出てくださいということをお願いしようと思っております。そういったことにすれば、基本的にはあその前の6m道路は、そんなに狭いわけではないので、曲がり角だけは、どうしても見にくいということは確かですので、そういったところで安全を確保していくのが一番いいのかと思います。それで十分対応が可能な範囲だと思っております。

(佐間田会長) そうしますと、こちらの角は、バスはあまり通らないということなんですか。

(内木園長) 基本的にですね、JRの前の角をバスが通るということは想定してません。

(佐間田会長) わかりました。ありがとうございます。

(内木園長) もう1点ですね。なぜ、あの位置にというところ、あの土地だったかということですが、私自身はですね、位置よりも大切なのは、たぶん広さであったりとか、そこでどれだけ充実した保育ができるかということだと思っているんですね。距離を超えて、薬師寺幼稚園に入りたいとか、第2薬師寺幼稚園に入りたいとか、わかばに入りたいとか言って下さる方はたくさんいらっしゃって、そういった風に考えた時にですね、位置よりもたぶん、広さだと僕は思ったんですね。それもあってですね、一番広い土地といったところで決めました。やはり、私たちは保育の質を上げて保育で勝負をしていくといったところを考えた時に、一番大切なのは、外でどれだけ充実した保育ができるかということだと思っているので、少しでも広く、園庭が取れるようにですね、駐車場が取れるようにとか利便性と保育の質というところを考えて決めました。皆さん、位置に注目されている方が多いんだと思うんですけど、どんな内容であってでもですね、やはり、最後、保護者が選ぶときに近いから入れる、というよりは、こっちの保育の方が私の考えにあっているからとか、うちの子にあっているからこっちに入れたいと選ぶのが自然のかなと思っています。なので、そういったところで考えて広さを選んだというふうになります。以上です。

(佐間田会長) 位置って、正直、保護者からすると結構大切だと思うんですね。私個人的になってしまうんですけど、職場であったり、自宅に近いところであったりとか、位置って、教育内容もそうですが、位置って大切かなと思います。今建っている園舎、義務教育学校が建っているあたりとかは候補に挙がらなかったのでしょうか。

(内木園長) はい、今建っている園舎の辺りはですね、全部、埋蔵文化財包蔵地になるので発掘しなければならないということで、余計なコストがかかり、なおかつ、何か重要な文化財が出てくると、開発中止して明け渡さなければならないというかたちになります。薬師寺幼稚園が園舎を建てる時もそうだったんですけども、3か月、4か月止まってしましまして、計画通りにいかなかったりとかですね、やはり、文化財が出てしまって、それを薬師寺歴史館に寄附するとかですね、いろんなことをやりました。そういうこともあってですね、ひやひやしたものですから、基本的に薬師寺の包蔵地じゃないところにしたいなというところと、あと、やはり、高台に行きたいということになるべくリスクの少ないところを、いろんなことを考えて決めました。仁良川

の方に行かなかったのは、基本的には、東保育所、西保育所と呼ばれていたのが、今の、西保育所と呼ばれていたのは薬師寺保育園なんですね、東保育所と呼ばれていたのは吉田保育園となっていて、南河内町民だった私からすると、新4号を挟んで東側は、東保育所の方だなというイメージがあったのと、あと一番は、在園児がグリーンタウンから結構来っていると。仁良川よりも、グリーンタウンとなぜか分からないんですけども石橋地区、そういったところから令和2年度はいらっしやっていて、そういったところも含めて、仁良川の方からだと、結構来やすい位置ではあるんですが、ガード下をくぐるとそのまま来れてしまうので、そういったところも含めてですね、あそこが一番ベストかなと考えました。意外と、位置が重要なんだと、今、勉強になったんですけども、私としては、位置よりも広さということも思っていたものですから、確かに方角としては仁良川の方なんだと思うんですけども、ただ、私としては、元々がですね、園から3キロとか、いっても5キロ、今の在園児の保護者が遠いと感じない、車で5分圏内というのが選定のポイントだったので、その中で、現実的に保育園を開園した時に、広いとか、田んぼの中ではないとか、後ろが畑で日照権の問題がでないとかと、いろんなことを考えたうえであそこにしたという形になってます。

(佐間田会長) わかりました。ありがとうございました。

(竹内委員) 企業代表として、あのメインの質問の前に、位置の問題って、意外と大事なんだと改めて知りましたし、私、この業界じゃないんで知らないんで申し訳ないんですけど、事務局さんにお伺いしたいんですが、この位置については、移転に関しての位置については、それは、園の希望が100%、そちらが主、別に市とかが強制で指示が出せるわけではないんですよね。民間ですから、そういう縛りがあるんですか。

(事務局、金田課長)

場所という観点ですが、市の子育て支援計画では、そういった建てる場合の場所の制限はないので、当然、ここじゃないとダメとか、ここにしなさいという縛りはありません。

(竹内委員) 法律上もないんですよね。

(事務局、金田課長)

法律上も特に、建築、別の法律で、建てられる場所というのがありますが、移転の制限については特にはないので。

(竹内委員) そうすると、違う業界からすると、一企業が決めたことに変えることができ

ないということですね、危険なところで何かあった場合には、安全配慮義務というのが企業にはありますので、訴えられるのは、損害賠償されるのは園であって、そこで、企業としては怖いんで、どこに選択するかという中で、選んだわけですから。この会では変えられないことなんだな、ということが1つです。あと、事務局にお伺いしたいのは、下野市がどういう状況かわからないんですけども、0～5歳児は、全部、下野市全体で、入りたいと言ったら、定員はすぐ入れるんですよ。入れないんですか。

(事務局、植野主幹)

お答えします。保護者の希望を聞いて、第1希望がダメであれば、第2、第3というふうをお願いしているので、今のところ、どこかには入れます。

(竹内委員) どこかには入れるんですね。

(事務局、植野主幹)

ただ、希望じゃない園だと、そこには入れたくないとか、いろんな事情があるので、それで入らないという保護者の方もいらっしゃいますし、そのために、希望のところに入れたいから、育児休業を延ばしたりとかという方もいらっしゃるのとは間違いないので、先ほども言いましたとおりに、数値化されていない需要もあるので、預ける所があれば、早めて仕事をしたいという方もいらっしゃるということも間違いないです。

(竹内委員) 本人の希望は別として、そうじゃない人は100%。%はどれくらいですか。

(事務局、植野主幹)

それは、年度当初ですか。

(竹内委員) 直近でいいです。年度当初でもいいです。

(事務局、植野主幹)

今のところ、皆さん、入れています。

(竹内委員) それはどれくらいの数字ですか。ゆとりがあると思うんですけども。

(事務局、植野主幹)

年度当初は、希望された方は、ほぼ入れています。

(竹内委員) そうすると、60名から50名とか増えなくてもいいと言えば、いいわけですか。

(事務局、植野主幹)

そうですね、あくまでも、利用状況とか、他の園のバランスとか、保護者の希望とか、施設のいろんな条件がありますので、考えて決めていくので、すぐ上がっていくというわけではなくて、段階的に、毎年の入園状況とか、入園審査するんですけども、希望で、4月からの入園で、それで、施設側と市で話し合っけて決めていく、段階的に希望が多ければ、増やしていくということになると思うんですが。

(竹内委員) やはり、つまり、今現在、個人の希望は別として、かなりゆとりがある状態になっているんだけど、少し、定員数も増やすようにして、増えていったら、それに合わせるようにしたということでもいいんですね。これ、さっきの資料をみていますと、結構、5年、6年と30名ずつ延ばしてありますが、ほんとにそんなにあがるんですか。私からすると。企業から見ると。策定時の人数は。策定は何年にしたんですか。

(事務局、植野主幹)

令和2年に策定したものです。

(竹内委員) ずいぶんと差異が、実際、実績とあるなど。策定から実際の計、下のと見ると、ほとんど、令和2年はマイナス44名、マイナス59名、マイナス34名となっているのにも関わらず、ほんと、30名、30名、5年・6年と上がるのかなど、企業からすると、何を根拠にこんなに上がっているのかと、ちょっと思うところですが。あと、上がると想定して、下野市全体で、その50名、薬師寺さんの他はどのくらい増やしているんですか。

(事務局、植野主幹)

下野市全体でみて、利用定員も他の施設も変えていくので、薬師寺保育園をいきなり50名増やすのではなくて、皆様の希望で、他の施設も調整していきながらということになりますので、薬師寺保育園が利用定員が増えたからその分を、50名を皆さんにお願いするというのではなくて。

(竹内委員) 私の質問は、50名ゆとりがあるということで、他の園にどうやって割振りするんですか。

(事務局、植野主幹)

やっぱり、保護者の方の希望。

(竹内委員) 現時点であるんですか、20名とか。増やせるんですか。それが私には分かりません。

(事務局、植野主幹)

各施設の余力というか、利用定員に余りがあったり、認可定員よりも利用定員の方を抑えているので、たぶん、認可定員まで増やせるので、職員の配置とかもあるんですけども、増やしていくことは可能だと思います。

(竹内委員) 可能というか、現に、実際、110名まで延ばせるよと、移転してなったわけですね。他のところは、こういう風にはならないんですか。割り振らないのかなと。素人的には思うんですが。不平等に見えちゃうのは、それは大丈夫なのと、単純に。比率があって、みんなに分けたりするものではないんですか。

(事務局、植野主幹)

あくまでも、保護者の希望というのが一番で、例えば他の石橋地区の保育園を希望していた人が、南河内地区とか、国分寺地区に空いているからそっち行ってくださいっていうと、勤務先とか、保育園関係で無理だということもあるんで、できれば、やっぱり、保護者の希望を。

(竹内委員) 保護者の希望と言いますがけれども、保護者の希望は全部オープンに。全部、情報としてあるんですか。

(事務局、植野主幹)

入園審査、入園申し込みの時に希望は書いて頂くので、第1希望だけじゃなくて、第10希望まで書いて頂きますので、その中でできれば。

(竹内委員) それで、市が判断している。

(事務局、植野主幹)

いえ、市側と、施設側で話しあって、入園はどうですか、と。相談してきめています。

(竹内委員) 施設側と、希望がある程度一致していれば、増やしてくれるということですね。それは大丈夫なんですね。なんか、聞いてると、よく分かんないんですが、そこだけなんか取っているような感じになるんですけども。

(事務局、植野主幹)

そういうことではないです。

(小谷委員) 器がないと、増やせませうといても、現実的に。

(竹内委員) その器の箱モノは、税金は入っていないんでしょ。補助入ってるんですか。建てるのに。土地とか、建物とか。

(内木園長) 土地は、どこの施設さんも一緒に。建てる時は補助金を頂いております。うちは、0歳児を入れたくても、入れられないんで、そこは増やしたいということは市に相談して、それを積み上げたら、110名という数字になりました。

(竹内委員) そういうことですね。他の施設も平等に、そうやって、補助ももらってやりたいと言ったら出来るということでもいいのかな。

(事務局、植野主幹)

そうですね。平等に、偏ってるわけではなく、市としては平等に考えてますので、それも、市の全体で考えてということになると思うんですけども、平等でっていうのは。

(竹内委員) 私、そこに補助が入っているというのは知らなくて。税金が、その辺を偏らずに、きちんと全体を見て、市側がやってくれるとそんなに不満が出ないんじゃないのかというのが、一企業から見て思いますので、よろしく願いいたします。

(事務局、植野主幹)

ありがとうございます。

(小谷委員) 来年の3月には何人卒園されるのでしょうか。

(内木園長) 今の5歳児さんは10名です。10名卒園されます。

(小谷委員) そういうことは、来年の4月には、10名以上は入ってくるということですよ。ということは、増えて、60名ではあるけれども、新しく10名は入ってくるということになりますよね。

(内木園長) 何人希望されるかは、未来の話は私も分かりませんので。そうなると思いますとは、言いづらいのですが、おそらく、例年通りだと10名以上は入って

くと思います。

(小谷委員) ですよ。じゃないと、110名を設定する意味が、やっぱり、年々、いくつ、いくつっていきますよね。経営していくのにはね。そうなってくると、10名か、あるいは、もう10名増えて20名を、どこから、今、親御さんの希望とおっしゃいましたけれども、第1希望からずっと第10希望まで取ってるわけですよ、だから、どこかに、こう、親御さんは納得いくようにまわっていくわけですよ。そうすると、決まった人数がいるわけですから、下野市として。それで、新たに10名、もう、現に、60名から卒園するから、人数的に60名でずっといくんですと聞こえるんですけども、実際には、新しい方を入れていくということになると、やっぱり、現実には、増やしていくということに繋がると思うんですね。それは経営していかなくちゃいけないので、いたしかないと思うんですけど、やっぱり、こうね、新しく、広いところでやっていこうというお気持ちがありながら、どうしてこんなにね、何度も何度もこの薬師寺さんのことでね、時間を割かなきゃならないというのは、何が原因だとお考えでしょうかね。もっと喜ばれていいことですよ、子どもたちのために、大きな施設を造るということは、うれしいことですよ。だけれども、すごく長い時間かけて、批判的なニュースってあると思うんですけども、薬師寺さんとして、何が原因でこんなに長引いているとお考えですか。どう思われますか。

(内木園長) 私もよく分からないので、教えて頂きたいと思うのですが、基本的には、在園児と保護者、それから教職員とかみんなが幸せになれる施設ということで、やっぱり、自分たちにできる、最大の最高の施設を造ろうとしてやっております。それが、外から見た時にですね、やっぱり違う見方が、立場が違えば違う見方をされる方もいらっしゃるかもしれないし、うちにばっかりに園児が来てっていうようなお話を議事録で見ましたけれども、そういったところは結果として、他から見たら違う見え方をする方もいらっしゃるかもしれません。ただ、やっぱり自分たちの使命を考えた時にですね、いい保育をするために努力をしていくことというのは、すごく必要なことだと思うんですね。そういった形で、結果的に、人がうちに集まってきたというところで、選んでいただけたということはあるけれども、何ていうか、トラブらないようにということを持ってくるよりは、やっぱり、子ども、保護者のためにといったところで最大限の努力をすることは別に間違っていないと私は思っていますので、なので、周りの教育施設からしてみると、その増えた分をどこから持ってくるんですか、というところはあるかもしれませんが、増えるとは確定してないと、私は思っているんですね。やっぱりこれからの保育で増えていくように私たちは頑張りますけれども、他の施設さんも頑張ることによって、一番いいのは、下野市に定住す

る人が増えたり、子育てが充実した下野市に住みたいというふうなブレーンを作っていくのが一番重要なんだろうなと思っています。そのために、いつでも入れる安心感とか、そういう部分で、いい施設があった方が、私としてはいいんじゃないかなと、総合的に考えてですね、なぜトラブっているのかということでは私が答えることではないのかなと思いますけれども、そのように私としては思っているところです。

(小谷委員) はい、ありがとうございます。ぜひですね、お考え頂けるとありがたいなというふうに思います。やっぱり、社会は繋がってますので、正しいお答えだと思いますし、立派だなと思います。ただ、やっぱり、皆さんとともにね、やっていくというところから見た時に、これだけのご意見がでたら、やっぱり、何が原因だったのかなというところはお考え頂かないと、やっぱり同じ歩調で下野市にいるお子さんをみていくっていう、やっぱり、繋がってますので、一つの園だけがうまくいくというのはあり得ないというふうに、やっぱり皆で精度を上げていくということが必要なことなので、その時にやはり他の園さんが思っている思いを、やっぱり汲み取る力、それが必要なんじゃないかなというふうに思います。ちょっと、質問を投げても、ちょっとがっかりしたかなという感じがいたします。ありがとうございました。

(健康福祉部長、福田部長)

事務局の立場ですね、一言お話をさせていただきます。この子ども・子育て会議に関しましては、これまで何度となくお集まり頂きまして、薬師寺保育園さんの移転等についての説明をさせて頂いているところでありますけれども、今日の会議資料の中でですね、現状と課題ということで担当から説明ありましたとおり、この定員を増やす事業に関してですね、子ども・子育て会議、或いは市内事業者の方々に説明が不十分な部分があったというお話をさせて頂きました。現にですね、令和2年度の子ども・子育て会議、こちらの方がですね、コロナの感染拡大等もございまして、開催ができておりませんでした。そういったこともありまして、余計に説明の方も足りなかったということもございまして、今回もですね、このような形で会議の方を設営させて頂いております。この事業、子ども・子育ての事業計画の方に、薬師寺保育園の認定こども園への移行事業を位置づけをしていきたいと、本日は会議の設定をさせて頂いたところでありますので、その点、ご了承して頂ければと思っております。

(早川委員) 下野市の方にお伺いしたいんですけども、今後、こがねい保育園を薬師寺さんの方に民営化にされるんですよね。それはまだ決定ではないんですか。

(事務局、植野主幹)

令和4年4月からこがねい保育園は民営化されています。

(早川委員) 今後、下野市が抱えている、下野市立の保育園というのはどういう基準で、今後、どこの園が民営化にあたるのかというのを、明確なものは保護者には見えてこなくて、保護者って、やっぱり、選びたいんですよ。はっきり言いまして。位置もそうです、保育内容もそうです、自分の子どもがより快適に過ごせることが第一ですし、やはり私も仕事している以上、距離というのはとても大切です。以前から、この位置の話についていつも言ってきたんですけども、ですが、今ある下野市内の保育園、幼稚園、認可幼稚園、全部、半分くらいがもう薬師寺さんなんですね。そうなりますと、本当に、申し訳ないんですけども、選ぶという基準をどこに置いてるんだって、思ってしまうんですよ。普通に順番に書いていって、薬師寺が多いじゃないですか、下野市さんもそれは分かっていますよね。その民営化するにあたって、どういうふうに、どこの園長さんたちがそういうふうの下野市と、ここが民営化にとりましますとお話をしているのかを、もうちょっと、市民とか、保護者とかに明確にして頂きたくて、こう言うのはなんですけれども、力関係なのかなと思ってしまう部分があるんですね。どうしても、やはり、小山市とか、宇都宮市とか、他の市を見させて頂くと、普通に系列園がちらほらあっても、ここまでっていうのは、なかなかないと思うんですよ。正直、下野市、仁良川はかなり義務教育学校のおかげで、結構移住してくる方が多いんです。どんどんどんどん家が建っている状態なんですけれども、それに伴っていないのが、産科、はもう今、産婦人科、産むところって少ないんですよ。そうやっていったときに、やっぱり、何でしょう、大きな幼稚園があつて、産科が少なくて、でもモデル校にした義務教育学校もあつて、なんか、こう、バランスがうまく取れていないように感じてしまって、話の論点がずれてしまったんですけども、民営化に委託するにあたって、どういう基準で、どういうふうな選定を行って、ここになりましたっていうのを、もっとちょっと市民が、明確にわかるように、見えるもので見せて頂きたいなと思うんですけども。今後、今、薬師寺さんが、今度こがねい保育園を民営化にしますっていうのは、どういう基準で決まったかというのと、これから先、もしも下野市にある保育園がまた民営化に委託していく時には、どういうふうな手順を行って、どういうふうに決めていくのかっていう2点を、ちょっと、どういうふうに市民に知らせるかっていうのを、ご検討いただくというか、今、すぐにご返答は難しいかと思います。明確にして頂けると、保護者としては、とても安心して、市で過ごすことができるなと思いますので、この2点について、長い年月かかっても、今年度中にはご返答いただけたら嬉しいなと思うんですけども。論点がずれてしまっていたらすみません。

(事務局、金田課長)

民営化につきましては、民営化の実施計画というのを定めまして、これまでですね、薬師寺保育園、こがねい保育園、今度、令和5年4月から吉田保育園が今度愛泉さんをお願いしようということが決まっております。他の公立保育園、グリムと、しば保育園については、当面、公立で進めていこうと。実施計画に基づきまして、進めていったところでありました。その際、民営化、年度ごとに募集、移管先の法人募集ということで、要綱を定めまして、ホームページ等で募集して、申し込みがあったところの法人さんの中から、プレゼンという形式でですね、このような運営方針でやります、とか、そういったものを選定委員会のメンバーで採点いたしまして、決めてきたところでもあります。複数の場合は、当然のように、点数の結果で決まってきましたが、例えば、1法人だけです、といったときにも、その1法人の内容が、基準点というか、それを設けまして、達しているかという判断がありますので、1社だからお願いというのではなくて、選定委員会を開いてですね、説明を受けて、採点をした結果、その法人さんをお願いしようということに進めてきております。その実施計画では、令和5年4月の吉田保育園で、そこで民営化の計画は完了するので、グリム、しばは、公立の保育園ということで、そこで民営化の計画は完了ということで進めております。現在令和4年ですが、令和5年4月の民営化に向けて、合同保育とか、次の法人さんが今の保育園に出向いて、交流を深めて、理解を深めてということで、民営化に向けて準備しているところでもあります。以上です。

(早川委員) わかりました。ありがとうございます。

(内木園長) 今の件についてですね、うちの名誉のために、不透明さの中で決められたとお感じのようなので、きちんとプレゼンをして、こがねい保育園の時は3社だったと思いますけれども、審査の結果、点数でですね、うちが1位になって決まったという形になってます。わかばの時もそうですし、宇都宮の園の方もそうですし、宇都宮市の学童の指定管理も、うちはやっていますけれども、毎度、やっぱり、きちんとプレゼンをして、その中で、一番いい提案になるように、自分たちを磨いてきて選ばれると、その結果、在園児にもいい保育が提供できると考えているので、決して、不透明の中で決まったものではないということは、うちの名誉のために言っておきたいなと思っております。

(小林委員) 事務局に聞きたいんですけども、入札結果って、情報提供って、情報発信はしているんですよね。公表しているんですよね。

(事務局、金田課長)

プレゼンの後、結果ということで、ホームページで公開、お知らせしている
ところですよ。

(小林委員) ホームページだけですかね。広報紙と違って、下野市さんはないんですた
け。

(佐間田会長) 広報紙はあります。

(小林委員) ホームページだけだと、すぐ消えちゃって、市民の方がなかなか見てくれ
ないというのがあるので、その情報発信はいろいろ手段もあると思うので、増
やした方がいいのかなと思いました。

(事務局、金田課長)

はい。ありがとうございます。募集要項の時は、広報紙を活用しておりました
が、結果につきましては、今、手元に資料がないので。結果についてはい
ろんな媒体を活用したいと思います。

(大垣委員) 先ほど、部長さんの方から、コロナの状況の中になってしまっていて、子育て
会議を開けなかったということでおっしゃっておられました。ほんとに、なぜ
薬師寺保育園が、ここまでいろんなことで議論されるかということは、子育て
会議をされなかったわけですね。それで、私達が招集された時には、ある
程度の枠があったんですね。それで、委員さんの中でも、やっぱり納得いか
ないものがたくさん出てきて、そこまでいろんなことが決まっている中
での会議になってしまっていて、何回か、やっぱり、会議は必要ですよとい
うことも訴えてきたんですが、状況的に難しかったということ。私たちは、や
っぱり子どものことを思うから、お母さんを思うから、これは、そのための
会議だと思うんですね。いろんな問題を抱えている子どもや、お母さんをフ
ォローしていく、大事な会議なので、やっぱり、何があろうと、そこを前提
において、子どもの取り合いとかそうではなくて、そこを前提において、も
う一度この会議の意味を、私達もそうですし、市側も考えて頂きたいと思
います。お願いします。

(健康福祉部長、福田部長)

ありがとうございました。ただ今のご意見、ごもつともだというふうに感じ
ております。確かに、コロナということで、会議の方は開催できなかった
と。その他に理由としてですね、この子ども・子育て会議に関しましては、
法的にも、利用定員を定めようとする時には、あらかじめ、子ども・子育て
会議の意見をきかなければならないと、そういった規定はされているところ

ではございます。ただ、確かに、利用定員を定めようとする時は、当然意見はきくことにはなるんですが、やはり、その前段としての説明が足らなかったというところは、市の方としても、そこのところは、確かに加味しているところではありますので、今後になってしまいますけれども、これに関しましては、十分、子ども・子育て会議の委員の方に説明をさせて頂いて、ご理解を頂けるように進めてまいりたいと考えております。

(佐間田会長) お時間の方もありますので、他に何かご質問のある方は、事務局の方をお願いしたいと思います。

(佐間田会長) では、次の4 その他にいきたいと思います。事務局の方からお願いいたします。

(事務局、金田課長)

前回の子ども・子育て会議の時に委員さんからの質問事項がありましたので、その点について回答いたします。

まず、保育園の新規入園の申し込みの窓口対応ということで、確認がありました。窓口に申し込みに来られた保護者の住所や勤務場所、保育内容の希望等を確認して、希望の保育園以外も空きがある園について案内はしているところでもあります。さきほどもでしたが、第10希望まで申し込みができるようになっておりますので、入園ができなかった場合を想定し、なるべく多くの園を記入してもらうようにしているところでもあります。

次に、第三者評価についての質問がありました。保育園の第三者評価の受審については努力義務となっているところですが、受審して、その結果をホームページ等で公表した場合、受審料の一部、半額程度を公定価格の第三者評価受審加算として、5年に一回補助されるということでもあります。

次に、保育園の空き状況について、ホームページでの空き状況をお知らせしてはというご意見がありました。ただ今、近隣市町のホームページを参考に現在検討、作成、検証しております。施設長会議でご了承いただいた後に、公表することになります。

また、児童館、石橋地区の複合施設の児童館についてですが、日曜日開館についてのご意見がありました。児童館は、現在、月曜日から土曜日に開館しております。児童館業務の他に、担当地区の学童保育室の管理運営も担っているところでもあります。学童保育室は学校と同じく月曜日から金曜日に下校後の児童の保育を行い、土曜日については各地区1か所で保育を行っております。児童館を日曜日開館とした時に、月曜日を休館となりますと、学童保育室での対応というところで、緊急事態における対応ができなくなってしまいますので、現時点では公民館と同様の、日曜日開館は考えておりませんので、現状ではそういった状況です。

(竹内委員) 文書では、議事録というのはいらないのですか。例えば、次の時に、議事録メモみたいなをもらいたいんだけど。ここで言ったことは、議事録はつけてるんですよ。

(事務局、伊澤課長補佐)

議事録につきましては、なるべく早く、一言一句で議事録を作成しております。ホームページの方で公表させて頂いております。委員さんのおっしゃるように、紙ベースお手元に置いておきたいというご要望であれば、次の会議の際に、前回の会議の議事録ということで配布させて頂くことでよろしいでしょうか。

(竹内委員) 私は、そういうことを希望します。こういう会議をした場合は、必ずそうやってもらっておかないと、前回の話も分からなくなってしまうし、何がコミットされているのかが、結構、曖昧になってしまいますので。例えば、今日の薬師寺さんの説明で、皆さん承認していただけますか、ということですが、承認せざるを得ないと思うんですけども、ただし、条件的に、我々としては、これが条件なんです、ということをきちんと残しておかないと、ただ言って、何も残らないというのは困りますので、その方がいいと思います。

(佐間田会長) 最後に、私の方からひとつだけ。エキサイティングしてしまいましたが、これから皆さん、お子さんがいる現場に戻りますので、クールダウンするためにも、ちょっとだけお話をさせてください。クールダウンして笑顔でお子さんにお会いしてほしいと思いますので。

(竹内委員) そんなにエキサイティングしていないですよ。企業だったら、もっとすごいですよ。優しい感じですよ。

(佐間田会長) 娘の話をひとつだけ、都内で今、幼児教育に関わる仕事をしております。大学の時に進学して地元から離れましたが、その時に、都内の方でアパートに住んでいて、隣のお部屋のお子さんが、たぶん、小学生、カギを忘れて締め出しになってしまっただけ。でも、冬の寒い日です、ほんと、寒そうにしてたんだけど、今までの自分だったら、隣のおばちゃんが声を掛けてくれたりしたけれど、自分は隣に住んでいても、顔を見たこともなく、自分が声をかけたら、その子が怖がるんじゃないかと思って、声かけられないし、食べ物をあげたら毒が入っているんじゃないかと思われたら嫌だし、と思って、結局ホッカイロだけを渡したそうです。やっぱり下野市に育って良かったなあ、って思ったと言っていました。教育実習で地元の小学校に来ました。実習生で

すから、支援クラスのお子さんについて回って、ちょうど運動公園に交流のレクリエーションなんかで行った時に、普通のお子さんは交流して遊んでますね。支援クラスの子がドングリを拾い集めたそうなんです。それは、自分のために拾っているのかな、と思ったら、授業が終わったら、クラスの皆さんに一個ずつ分けたんです、そして、みんなの分を拾ったよ、って、そしてみんな喜んで、最後に余ったドングリを争奪戦でジャンケン大会になったということで、娘がそのドングリを持ってまいりましたが、こんなこと、都会じゃ考えられない。この下野市の子ども達は、こんな自然豊かな中で、こんな人たちのコミュニティの中で育っているんだと、私はここで育ってよかったって言っていました。みなさん、これから皆さん、今から職場に帰って給食に間に合うかなっていうところで申し訳ないんですが、子ども達は、そんな優しい子ども達です、保護者支援という面でも大切だと思うんですが、保護者支援というよりは、皆さんで、子どもの、下野市の地域の宝ですよ、地域の宝を育てるために支えていって頂きたいなと思います。では、事務局の方にお戻ししたいと思います。

(事務局、金田課長)

それでは、次回の会議の予定ですが、お知らせいたします。8月23日、火曜日、10時半を予定しております。事前に通知発送いたしますので、ご出席いただきますよう、よろしく願いいたします。

(佐間田会長) では、以上で議事を終了したいと思います。活発なご議論、ありがとうございました。

5. 閉 会

(事務局、金田課長)

以上をもちまして、令和4年度第2回下野市子ども・子育て会議を終了いたします。ありがとうございました。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためここに署名する。

会 長.....